



## 診療科紹介

### 泌尿器科

担当医師 渡邊 健二、田邊 信明、小室 三津夫、相川 雅美



副院長 渡邊健二

日本泌尿器科学会専門医の4名で診療に当たっております。前立腺癌を中心に、膀胱癌、腎癌、腎盂尿管癌など尿路悪性腫瘍の治療に積極的に取り組んでいます。

手術件数では、山梨大学医学部附属病院に次ぐものとなっています。

前立腺癌については、放射線科医による放射線治療も可能です。また、結石治療につきましては、体外衝撃波結石破碎術が主体ですが、破碎困難症例には内視鏡的結石除去術も併用し、あらゆる結石の治療を可能としています。尿路結石の治療件数は県内一です。排尿障害では、薬物治療に加え適応症例では前立腺内視鏡手術も施行しています。その他あらゆる泌尿器疾患に対応しておりますので、今後も引き続きご紹介いただければ幸いです。

### 消化器内科

担当医師 佐藤 公、山口 達也、雨宮 史武、高橋 英、佐藤 光明  
横田 雄大、吉田 貴史



部長 佐藤 公

山梨大学第一内科より常勤医7名が赴任し、11月1日より正式に消化器内科としての診療を開始いたしました。当科の大きな特徴としては、山梨大学消化器内科との診療連携が挙げられます。大学と市立甲府病院間では、互いに紹介患者の電子カルテを閲覧し、情報を共有することが可能で、患者さんの状態や病院の受け入れ体制に応じてより適切な入院先を決定するなど、効率的な病床管理を行うことが可能となっています。

また、最新の医療機器を導入するとともに、大学との間でテレビ会議システムを用いたカンファランスに加え、大学と市立甲府病院間で相互に専門医が非常勤医として交流するなどして、新しい連携の形を構築し、レベルの高い診療を目指しています。消化器内科領域での専門医療の需要は大きく、診療開始後約1カ月間で消化器内科予定病床はほぼ満床となりつつあります。

胆道、膵臓および消化管病変に対する内視鏡治療や悪性腫瘍に対する化学療法、肝がんに対する動脈塞栓術、ラジオ波焼灼術など専門医療を求める患者さんの入院が大半を占めています。

今後も患者さんの期待に応え、消化器内科専門医療機関としての使命を果たして行きたいと考えております。

### 脳神経外科

担当医師 及川 奏、中村 一也



部長 及川 奏

日本脳神経外科学会専門医二名で、定位脳手術から脳血管障害、脳腫瘍手術まで幅広く診療を行っています。外来は月・水・金曜日が及川で、主に脳腫瘍、機能的手術（定位脳、微小血管減圧術など）を担当し、火・木曜日は中村が主に脳血管障害を担当しています。山梨県で唯一、パーキンソン病に対する脳深部刺激手術ができる施設です。手術は脳動脈瘤クリッピング術、頭蓋外内バイパス術、頸部内頸動脈内膜剥離術、頭蓋底外科手術などの主要手術以外に正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫などの手術にも力を入れています。

また、近年注目される脳脊髄液減少症の診断・治療も行えます。自分の親、兄弟、子供であったならばどのような治療をするか考え、常に患者の立場に立った診療を心がけています。今後ともよろしく願いいたします。

## 神経内科

担当医師 富樫 慎治



科長 富樫慎治

当科の外来は、山梨大学医学部附属病院からの助けを得て、午前は2、3名で行っています。認知障害、ふらつき、しびれ一般の検査は通院で行っています。

午後の入院診療、時間外の対応は現在も1人ではありますが、神経内科疾患の急病に対応できる施設が県内にあまりない現状から、脳血管障害のほか髄膜炎、けいれん重積、他院で外来通院していたパーキンソン病そのほかの難病疾患の病態悪化時の入院依頼を引き受けています。

また、他科診療中の方の神経領域の症状、脳症、末梢神経障害へのアドバイスをを行い病院全体の診療の質を高めるように努めています。

## 皮膚科

担当医師 市川 健



科長 市川 健

担当医は1名で皮膚疾患の全般を診療しております。アトピー性皮膚炎では年齢、重症度などを考慮し、スキンケアなど外用療法を中心とした治療と指導を心がけ、難治例は指導の意味も含め入院治療を行うこともあります。レーザー治療の適応となる色素性病変は形成外科に紹介しています。

また、尋常性疣贅や脂漏性角化症などには液体窒素による凍結療法、乾癬には内服、ビタミンD軟膏やステロイド軟膏の外用療法のほかPUVA療法も行っています。帯状疱疹には坑ウイルス剤の外用、内服、重症例では入院加療、帯状疱疹後神経痛に対しては神経ブロック(麻醉科に依頼)などを施行しております。

外来診療は月曜から金曜の午前中で、午後は入院患者処置や手術時間帯としています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

## 形成外科

担当医師 成松 巖



医長 成松 巖

当科では先天的・後天的な身体外表の形状・醜状および外傷・後遺症などに対して治療を行います。主に顔面の外傷・骨折や手指・爪の外傷やその後遺症の治療、植皮術も含めた熱傷および拘縮の治療、皮膚軟部腫瘍の切除とその再建、レーザーによる母斑症や刺青・しみの治療などを行っています。

近年、眼瞼の手術を行うことで原因不明の頭痛・肩こり・頸部痛などの不定愁訴の改善ができることが分かってきており、この手術を積極的に行っています。眼瞼については、内反症(逆さ睫毛)や外反症、眼瞼痙攣に対する外科的治療も行っています。

信州大学形成外科と連携して「唇顎口蓋裂」と「漏斗胸」の専門外来を設けています。よろしくお願いします。

## 各セクション紹介

**血液浄化療法室** 担当医師 田邊 信明、緒方 亮二、相川 雅美、小室 三津夫



室長 田邊信明

血液浄化療法室は、担当医師（日本透析医学会専門医の泌尿器科医3名、腎臓内科医1名）とスタッフ（看護師10名、臨床工学技士8名）の協力のもと、診療に当たっております。現在、28台の透析ベッドを有し、約70名の患者さんの透析を施行しています。透析の新規導入、通常の維持透析に加え、他院透析中で手術など入院加療を必要とする透析患者さんにも対応しております。

透析以外には、LDL吸着、エンドトキシン吸着、血漿交換も適宜施行しています。また、内シャントトラブル時のインターベンション治療、内シャント再建にも取り組んでいます。

## 麻酔科

担当医師 久米 正記、池谷 一盛、和久田 みゆき、新谷 則之



部長 久米正記

当院麻酔科は、麻酔科学会専門医3名及び麻酔科標榜医1名の合計4名の常勤医で手術室での麻酔を中心に診療を行っています。手術中から始まる術後疼痛管理に力を入れ、痛みのない術後を目指しています。

また、部長の久米の小児病院勤務の経験を生かして、小児の術後疼痛管理にも硬膜外麻酔を行うなど、小児専門病院と同等の質の麻酔を提供できるよう努力しています。

疼痛外来は、月～金曜日の午前中に通院できる患者様を対象に診療を行っております。ペインクリニック専門医不在のため、簡単なブロックのみの対応とし難治性疼痛症例や難易度の高いブロックの必要な症例は、専門医の勤務する施設を紹介させていただきます。

## 病理科

担当医師 宮田 和幸



科長 宮田和幸

病理専門医1名、検査技師3名（うち2名は細胞検査士）で、病理診断業務を行っています。県内には病理医が常勤でいる病院は少なく、当院以外には3病院しかありません。病理診断はパートでも行えますが、病理医が常にいることによってカンファレンスはもちろんのこと、主治医とのディスカッションが随時可能なため、より正確な病理診断を導き出せ、主治医は病変に対する理解を深めることもでき、また、術中迅速診断も可能で最適な手術を選択できます。

このように、主治医を通して紹介患者の組織や細胞を見るという間接的な形ではありますが、質の高い医療を提供できるよう診療に関わらせてもらっています。